

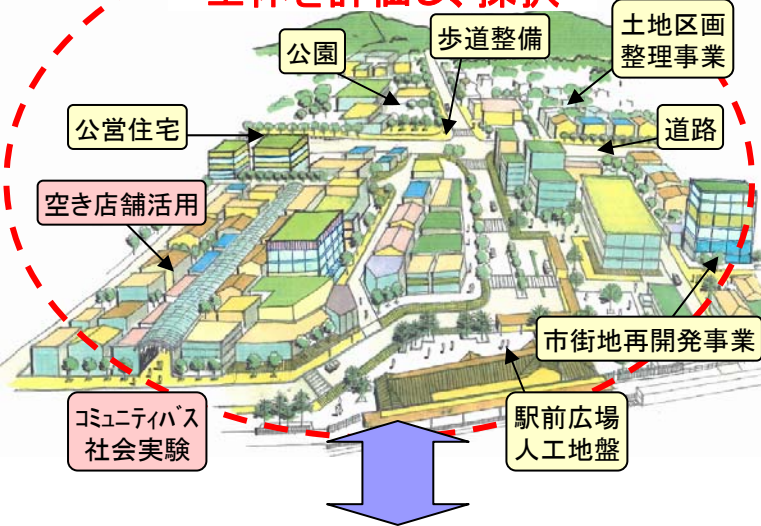
まちづくり交付金事業の 事後評価について

平成21年度第2回長岡市中心市街地構造改革会議」資料

まちづくり交付金の概要

・市町村が策定する都市再生整備計画に基づき、市町村が主体的に様々な事業を総合的に行えるまちづくり制度

都市再生整備計画
全体を評価し、採択



幅広い交付対象

○基幹事業

道路、公園、河川、下水道、土地区画整理事業、市街地再開発事業、高次都市施設等の公共事業

- シティホール
- ・ アリーナ
- ・ 屋根付き広場
- 駅前周辺整備
- 再開発事業
- 子育て支援施設 など

国費はどの事業にどのように充当しても自由

最大

4~4.5割

交付額

- 区画整理
- 駅前広場
- コミュニティバス
- 空き店舗活用
- ワークショップ
- 道路
- 住宅
- 社会実験

従来の補助事業

- ・個別事業毎に審査、採択
- ・事業毎に補助率は固定
- ・事業間の流用不可

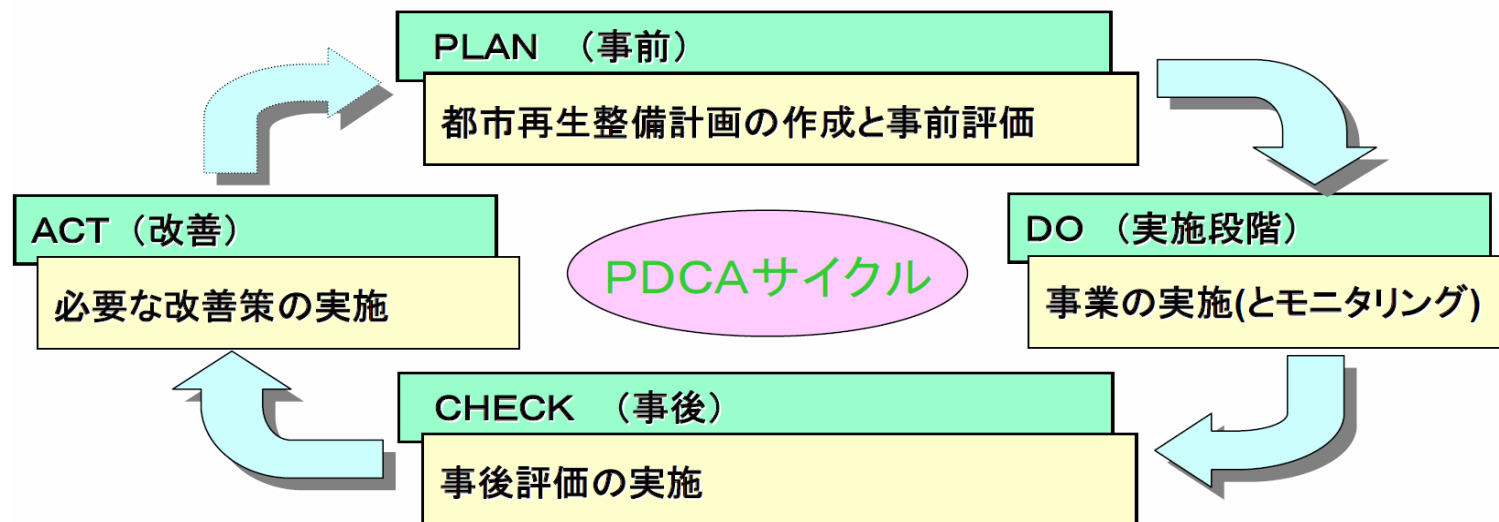
○提案事業

コミュニティバスの社会実験等、市町村の提案に基づく事業

- シティホール
- ・ 市役所事務機能
- ・ 市民活動ホール
- ソフト事業
- ・ まちづくり活動事業
- ・ 交通対策事業 など

まちづくり交付金の流れ

- ・PDCAサイクルにより事業を実施



○まちづくり交付金の評価の特徴

- ・PDCAサイクルの確立
事後評価の重視と事業の成果を踏まえた「今後のまちづくり方策」の作成。
- ・わかりやすさと透明性の確保
事前に数値目標を設定し、交付終了年度に達成度を確認・公表。
- ・市町村の主体的な取り組み
市町村自らが目標、指標、数値目標を設定し、事前・事後評価を実施。

事後評価とは

■ 目的

交付金をもたらした成果等を客観的に診断し、効果発現の要因を分析して、今後のまちづくりを適切な方向に導くとともに、これらを住民にわかりやすく説明することを目的とする。

■ 事後評価の作業内容 (方法書・事後評価シートは事務局が作成)

① 方法書の作成

- ・事後評価の円滑な実施のための方法書

② 事後評価シートの作成

- ・事業の実施状況、事業の効果の検証、今後のまちづくり方策等を記載

③ 事後評価内容の審議

- ・評価委員会の開催、評価内容について委員から意見聴衆

事後評価の流れ

- ①方法書の作成(事後評価手法の決定) H22.4 ~ 5
- ②事業の成果及び実施過程の評価の実施 H22.6 ~ 8
- ③事後評価原案(素案)の作成 H22.8 ~ 9
- ④庁内検討会の実施(事後評価の庁内検証) H22.8 ~ 9
- ⑤事後評価原案の住民への公表 H22.10~11
- ⑥評価委員会(構造改革会議)での審議 H22.11
- ⑦評価結果を国へ提出・住民へ公表 H23.3

※事後評価のフォローアップ H23.11 ~ H24.3

審議していただく内容

(1) 成果の達成度評価

- ① 数値指標の目標値達成について
- ② 定量的に表現できない効果発現について

(2) 事業の効果発現要因の整理

- ① 指標が達成できた要因について
- ② 指標が達成できなかった要因について

(3) 今後のまちづくり方策

- ① 達成されたことと残された課題、新たな課題
- ② 次期計画への活かし方について

事後評価原案に基づき、以上の評価内容を事務局から説明

評価内容の審議(確認)
委員から意見聴衆

審議により寄せられた意見等を評価に反映させて事後評価シートを作成

事後評価事例

まちづくり交付金 事後評価シート
山本・栖吉地区

平成21年12月

新潟県長岡市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県	市町村名	長岡市	地区名	山本・栢吉地区			面積	880ha			
交付期間	平成17年度～平成21年度	事後評価実施時期	平成21年度	交付対象事業費	569百万円	国費率	0.4					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路事業(市道山本126号線、市道山本146号線、市道東幹線52号線)、公園事業(悠久山公園)									
		提案事業	なし									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし									
		提案事業	地域創造支援事業(防災点検・計画書の作成)									
	新たに追加した事業	基幹事業	道路事業(市道東幹線43号線、市道東幹線84号線、市道東幹線82号線)、地域生活基盤施設(情報伝達体制整備事業、耐震性貯水槽整備)									
	提案事業	地域創造支援事業(地域防災マップ及び情報伝達マニュアル作成、悠久山公園再生整備計画調査)、事業活用調査(まちづくり交付金事業実施に関する成果検証及びまちづくり方策検討業務委託)										
交付期間の変更	当初	平成17年度～平成19年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		事業期間の延長により、道路事業の更なる復旧率の改善が期待できるため、指標「危険箇所復旧率」の目標値を変更した。							
	変更	平成17年度～平成21年度										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標値	数値	目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
						モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標1	公園来園者数	人/年	445,100	H16	480,000	H21	484,800	○	あり なし	池の浚渫・修景整備等により、憩いとうるおいの空間が形成された。	H22年5月頃
	指標2	危険箇所復旧率	%	20	H16	80	H21	97	○	あり なし	危険箇所を整備したことにより、災害時の安全性の向上が図られた。	H23年4月頃
指標3	自主防災組織の会議	回/年	1	H16	3	H21	5	○	あり なし	地域防災マップの作成等により自主防災組織の会議等が活発に行われ、地区住民の防災意識が向上した。	H22年4月頃	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標値	数値	目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
						モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	その他の数値指標1	危険家屋減少数	戸	10	H16			757			危険箇所(道路)の整備により、安心安全に暮らせるようになり、住環境が向上した。	—
	その他の数値指標2	自主防災組織の結成数	団体	18	H16			25			自主防災組織の結成の促進により、地区住民の防災意識の向上につながった。	平成22年4月頃
その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況	平成18年11月に悠久山公園の整備に関する住民アンケートを実施し、その結果を踏まえてグラウンドと園路の整備を行った。グラウンドを芝生に張り替え自由広場として再整備したことで、砂埃が飛ばなくなり、利便性が増したという意見があった。また、園路舗装により、観桜会時に移動が円滑にできるようになったという意見が寄せられている。情報伝達装置、耐震性貯水槽の設置により、地域住民の災害時の不安解消につながり、安全なまちづくりを進めていくための一つのきっかけとなった。											
5)実施過程の評価	実施内容	実施状況										
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	悠久山公園の再生整備に係る住民ヒアリング 防災マップづくり	都市再生整備計画に記載し、実施できた ● 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	持続的なまちづくり体制の構築	自主防災会の結成の促進	都市再生整備計画に記載し、実施できた ● 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
今後の対応方針等												
悠久山公園:出された意見を活用しながら、今後の公園整備を推進する。 防災マップ:他地域での防災マップづくりに活用する。 結成された自主防災会等を活用し、市民相互支援の仕組みづくりを推進する。												

様式2-2 地区の概要

山本・栢吉地区(新潟県長岡市) まちづくり交付金の成果概要						
まちづくりの目標		目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
災害に強くなるおののあるまちづくり ○被災箇所や危険箇所等の整備を行い、地域防災性・安全性の向上を図る。 ○調整池の整備等によりうるおいのある空間を形成する。 ○地区住民の防災意識の向上と、災害発生時の施策の拡充を図る。 ○復興と併せて災害に強い都市構造の実現、農村集落の防災性向上と併せて活性化、住環境の向上を目指す。		公園未園者数	単位:人/年	445,100 H16	480,000 H21	484,800 H21
		危険箇所復旧率	単位:%	20 H16	80 H21	97 H21
		自主防災組織の会議	単位:回/年	1 H16	3 H21	5 H21
			単位:	H	H	H
			単位:	H	H	H
まちの課題の変化		<ul style="list-style-type: none"> 被災箇所や被災は免れたが危険な箇所等が整備され、地域の防災性・安全性が向上したが、引続き、災害時に避難路となる道路ネットワークの形成が必要である。 調整池の浚渫・修景整備により、うるおいのある空間形成が図られ、公園未園者数も増加したが、池に大量の水草が発生し景観上影響が生じている。 防災機能は、芝生広場の整備と園路の舗装(バリアフリー化)により、強化された。 防災マップの作成により、地区住民の防災意識の向上が図られたが、引続き住民の連絡体制の強化やソフト施策の拡充が必要である。 自主防災会の結成の促進及び情報伝達装置の設置により、災害時等の情報伝達体制の構築が図られ、農村集落の防災性が向上したが、引続き農村集落の活性化する取り組みが必要である。 				
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)		<ul style="list-style-type: none"> 被災箇所及び危険箇所等の部分的な整備について完了したため、今後は災害時に避難路となる狭い道路の拡幅改良を継続実施し、道路ネットワークの強化を図るとともに、個人住宅の耐震化を促進し、安心・安全な地域づくりを推進する。 現在事業中の市道東幹線84号線について、引き続き円滑な事業を促進し、早期完成を目指す。 悠久山公園の調整池は、浚渫・修景整備によりうるおいのある空間として整備されたが、池に水草が大量に発生し景観上影響を与えているため、水質や生態系に極力影響しないよう水草繁茂対策を行う。 悠久山公園内にある閉鎖した悠久山プール及びスキー場の跡地について再整備が必要ため、公園再整備に係る住民ヒアリング結果等を活用し、市民が求める公園機能の拡充を図る。 災害時に使用可能な情報伝達装置は設置したため、今後はその装置を活用できるよう情報伝達訓練を実施する等、住民の連絡体制の拡充を図る。 組織化された自主防災会等を活用した市民相互支援の仕組みづくりやコミュニティセンターを活用した住民のコミュニティ活動等を促進し、農村集落の活性化を図る。 				